

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すまいるネクスト		
○保護者評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R6年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個の気持ちに寄り添った支援	一人ひとりの「やってみたい」の声を聞き、挑戦できる環境を整え活動プログラムに反映させている。挑戦することで自己肯定感、自己効力感を高めることができる。また、思春期ならではの心の動きに対し、柔軟に対応しながら、アドバイスすることができる。	意思を伝えづらい利用者の、伝えるための方法やツールを考える。また、保護者や学校と連携を図り情報収集することで自己選択、意思決定しやすい環境を整えていく。
2	余暇の充実	様々な活動を提供する中で余暇の充実を図っている。パソコン、料理、音楽活動など自宅で出来る事や余暇時間にできる遊び、趣味のきっかけ作りをしている。一人で没頭できること、友だちと一緒に行動すること等活動提供している。	活動内容や支援物を充実させることで、興味を持って楽しめることを見つける。友だちがやっているのを見て、やってみたい、挑戦したい気持ちに寄り添いアプローチしていく。家庭や学校での取り組みを聞き、更に広がりができると良い。
3	外出・買い物支援	将来に向け、自己選択ができる機会、社会資源の活用の仕方、公共でのマナーを学べるようにしている。一人ひとりの自立を考え支援を行っている。	利用者発信で行き先が決められるよう、話し合いの場を計画、支援する。また、振り返る時間を作るなどし、学びの場を設けていく。目的別で小グループでの活動ができるとより明確である。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	思春期による心の動きに対して、その都度対応していく難しさ	関わり方、気持ちのコントロールの伝え方等難しさを感じる場面がある。学校での出来事、受験、就労に対する不安など様々な要因が重なることがある。背景を含め考察する必要がある。	家庭や学校、地域支援機関等との情報共有をし、気持ちの変化の把握を行っていく。また、信頼関係をさらに構築しながら本人が話しやすい環境作りをしていく。
2	プログラムによっては全員が満足できないこともあるのではないかな…	小学6年生から高校3年生まで在籍しており、プログラムによっては偏りが生じることがある。	高学年の子が年下の子に優しくサポートする姿が多くある為、広がっていくと良い。 小グループ、目的別での活動設定をし、ゴールを明確にしておく。毎日のミーティングや支援後振り返りをし次回の療育に繋げていく。
3			